

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

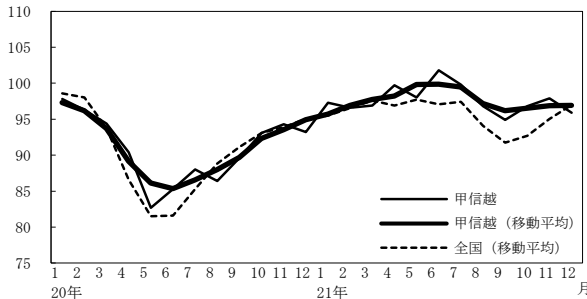
	前回 (令和3年12月)	今回 (令和4年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	↓
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、「電子デバ、電気・情報通信」が減少したこと、「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」が減少したこと等により、前期比0.3%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
電子デバ、電気・情報通信	28.9	▲4.4	▲4.0	▲0.1	1.5	▲2.4
汎・生産・業務用機械	24.8	▲2.9	3.2	6.9	▲2.6	▲3.1
食料品・たばこ	12.0	0.8	—	▲0.8	1.5	—
石油・石炭、化学、プラスチック	10.3	▲3.3	0.6	▲1.8	3.0	1.5
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.8	0.8	▲3.0	▲3.9	4.4	▲1.5
鉱工業	100.0	▲2.7	▲0.3	2.0	1.1	▲2.0

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。
2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 甲信越は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10-12月期、12月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

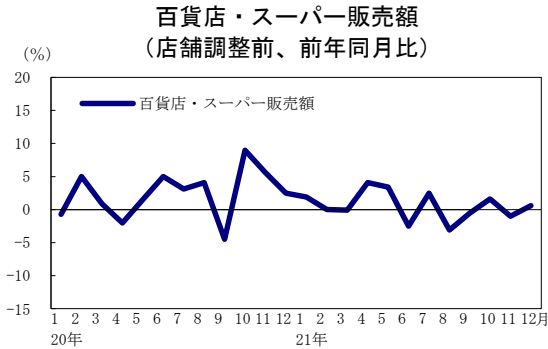
個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比2.6%増となった。月別にみると、10月は前月比2.6%増、11月は同0.4%減、12月は同0.2%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.4%増となった。月別にみると、10月は前年同月比1.6%増、11月は同1.0%減、12月は同0.6%増となった。



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	2.6	2.6	▲0.4	▲0.2
百貨店・スーパー(*2)	0.4	1.6	▲1.0	0.6
乗用車(*3)	▲16.2	▲29.1	▲8.9	▲10.0
(季節調整値)(*3)	3.2	20.6	20.6	3.3

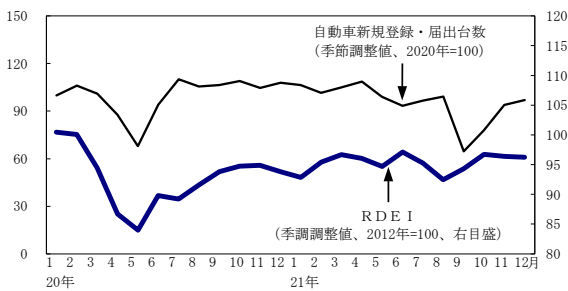
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

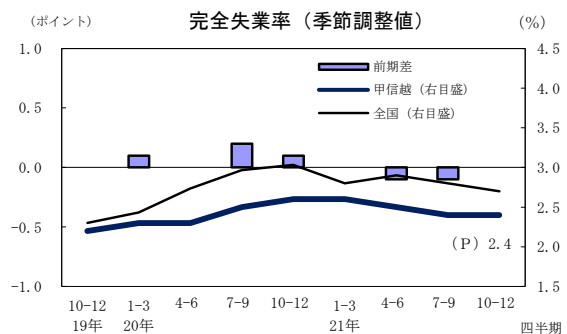
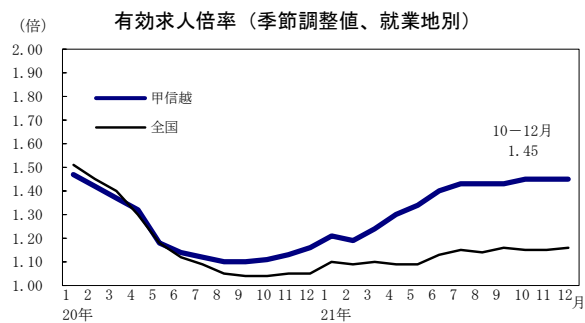
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。

2. 10-12月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	▲	・新型コロナウイルスの感染拡大により、人の動きと共に商材の動きも鈍くなっている。消費意欲をそそる商材もないため、厳しい状況は続いている（一般小売店 [家電]）。
		□	・来店する人数は減っているが、買上点数が多くなっているため、売上の的にはそれほど変わりはない（コンビニ）。
		×	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染急拡大による予約キャンセルや客足の減少と、まん延防止等重点措置も始まり、先の見えない不景気になっている（高級レストラン）。
	企業 動向 関連	×	・原材料価格が再び高騰してきている。また、その他資材価格も次から次へと値上げ要請が始まり、それを受け入れているが、当社も値上げしなくてはいけない状況になりつつある（食料品製造業）。
		□	・引き続き、新型コロナウイルスの影響が過大で、商材受注やワークショップの予約等も低迷している（窯業・土石製品製造業）。
		▲	・資材価格の高騰や納入の不安定化、また、冬期という季節的な要因もあり、やや悪くなっている（建設業）。
雇用 関連	□	・給与条件は変わらないものの、スキル等のハードルが上がっているため、折り合わないケースが多い。企業も求職者も互いにハードルを下げないと、採用には至らないと思う（人材派遣会社）。	
	○ ▲	・人が増えてきている（職業安定所）。 ・12月まで回復基調にあった飲食店、美術館、スーパー銭湯等のサービス業にヒアリングしたところ、1月に入って新型コロナウイルスオミクロン株の感染が急拡大し始めてから、急激に客足が落ちてきたとの回答が寄せられている（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント		▲：建設資材の値上がりによって建設コストが上昇し、計画が先送りや中止となっている（設計事務所）。 ×：新型コロナウイルスオミクロン株によって、更に感染が拡大したため、全ての仕事がキャンセルになっている（その他サービス [貸切バス]）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの感染拡大がいつ収束するのか、全く先が見通せない。客の動きがびたりと止まっており、もうどうにもならない状況である（都市型ホテル）。
		▲	・現在は新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大中で、まだピークになっていないと思うので、これから先どのような形になっていくか分からない。まだ景気が上向くようなイメージはできない（百貨店）。
	企業 動向 関連	□	・部品の供給不足が続いており、営業活動、生産に支障が出ている（電気機械器具製造業）。
		▲	・製造業は新型コロナウイルスの感染拡大に伴うサプライチェーンへの影響や生産水準の低下、また、非製造業では消費者の行動自粛による需要減少が予想される（金融業）。
		×	・新型コロナウイルス感染拡大の影響によるイベントの中止等で、ますます悪くなる（出版・印刷・同関連産業）。
	雇用 関連	□	・経済活動重視の新型コロナウイルス対策も必要だが、抜本的な対策にかじを切るべきではないか（人材派遣会社）。
▲		・新型コロナウイルス禍の収束ムードにあった年末から、これまで以上のペースでの拡大となった第6波の到来に、飲食店や宿泊業等のサービス業のダメージは大きい（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント		▲：食品の物価上昇が引き金となって、景気はやや悪くなる（スーパー）。 ×：新型コロナウイルスの感染再拡大の最中である。また自粛ムードになれば、感染拡大が収束しない限り、良くなることはない（その他レジャー施設 [ボウリング場]）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（甲信越）の推移（季節調整値）

